

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が周知できていない。あるだけのものになっており、職員も意識できていないように思える。	管理者は、年に1度はミーティングの場で理念について職員と共に話し合いを持つようにしているが、理念の意義、捉え方、日々の実践の中で具現化への話し合いが不足していると感じている。全職員との共有だけでなく、地域や家族等へも事業所理念としての説明や発信をする取り組みが望まれる。	管理者と全職員は事業所理念の意義を理解し、理念の共有と意識付けをしていくために日々の中で話し合いを重ねることが必要である。サービス提供の場面（ことば掛け・態度・記録等）を振り返り、理念が利用者のケアに反映されているか確認する機会を持ち、実践に繋げていく取り組みが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な関わりはあるが、日常的に関わりはもてていない。地域の行事に参加したり、地域の皆さんを招いての行事なども企画していきたいと思う	地域の防災訓練等に利用者とともに参加している。保育園や小学校行事への招待があり、園児・児童から事業所へ足を運んでもらえるよう取り組むことで地域と利用者が繋がっているよう支援している。また、高柳地区へ管理者が出向き、地域住民へ向けて施設の説明や紹介を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェの実施、ラン伴への参加、地域の講座に職員が参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組の報告は行っているが、地域の方からの意見はなかなかでない	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催となっているが感染症対策から書面での報告会となり、各メンバーへは送付前に電話連絡を入れている。柏崎市や地域包括支援センターの職員、町内会長や民生委員からは地域の実情や身内等の話や意見交換の場になっていたが、現在は「質問や意見等がありましたら…」の一文を載せているのみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時の連絡や相談は行っており、協力関係は築けていると思う	運営推進会議には柏崎市の職員が参加し、運営や現場のサービスの実情を伝える機会となっている。日頃から介護保険や運営上のことでの相談や事故報告等の連絡は行っており、感染防止策の徹底の情報や改善策等の助言をもらうなどの協力関係は築いている。柏崎市が抱える地域の課題には連携を図り、一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は定期的に行っており、現場での対応を例にし、どのような事が拘束になるのかなどの話し合いもミーティングで行っている	身体拘束防止マニュアルを作成し年間研修計画には2回の予定が組まれており、定期的な研修も行っている。今年度は身体拘束の事例を挙げ、全職員からケアの仕方を回答提出する「プリントワーク」で取り組んでいる。管理者は日々のケアの中でスピーチロックや言葉かけの例をその場で説明したり、ミーティングで話し合いを持つよう心掛けている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については入職時と定期的に研修を行っている	「高齢者虐待防止関連法」については入職時に1日かけた研修会を持ち、全職員を対象とした定期的な研修を受ける機会を持っている。日常業務の中での不適切ケアや言葉かけ等に関しては管理者がその場で説明したり、ミーティングで話し合うよう取り組んでいる。職員のストレスケアに関しては定期的な研修や管理者との面談で把握できるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などの研修は行っていない。研修をする機会を作るようにしていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明し、利用者、ご家族には何かあればいつでも聞いて頂くよう話をしている。面会に来た時など話しかけるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には普段から話をしたりしているが、ご家族にはプランの変更時などにしか詳しい話は聞けていない。	担当職員は日常の様子が見えるよう写真で伝える笑顔いっぱいの家族レターを作成し、請求書とともに家族へ毎月送付している。面会時やプラン変更時等には声掛けを行い、意見や要望等を伺う機会としている。遠方の家族とは電話連絡でプラン等の説明や携帯電話のラインアプリを利用した本人との面会や話し合いの場に活用し、信頼関係作りに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い話す機会を作っているが、なかなか反映できていない部分もあると思う	毎月のミーティングでは管理者が出席し、職員からの意見や要望等の声を聴き取る場を設けている。業務に関することはその場で取り決め実施できるようにし、それ以外の本部を巻きこんでの意見や要望等は管理者会議を通じ報告するようになっている。管理者をはじめ、相談しやすい職場の雰囲気があり、資格取得や異動希望等、若い職員が働き続けるための環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談なども行い、職員と話す機会をつくっている。やってみたいことや、研修などに参加してもらい、やる気につなげていっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は多くあるが、外部研修にはなかなか行けていないので、外部の研修に出る機会を多く作っていくようにしたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ会社内での関わりはあるが、他の施設などのかかわりはない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はもちろん、各利用者に個別の担当を付け、外出の機会や話す時間を作るようにし、信頼関係を築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に話を聞き、変わったことがある時は連絡をしたり、面会時にも声を掛けたり、信頼関係が築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの際にも話を聞くが、入所時や、入所して少ししてから再度利用者やご家族と話す機会をもっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできる事はやっていただくことを利用者、家族に話している。食事作りやたたみ物などを職員と一緒に行うようにし、職員も過剰な介護をしないよう、研修などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診は家族に行って頂いたり、衣替えなども行って頂いたり、面会や外出、外泊の機会を作っていただいている	定期的な受診は家族の協力や理解を受けながら継続しているが、感染症対策として現在は職員が同行受診を行っている。季節の衣替え時や面会時、または携帯電話のラインアプリを利用して家族との大切な時間を過ごせるよう支援している。外泊の機会や墓参り、地域の祭り等へは人間関係や地域社会との関わりを継続できるよう取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居しても行きつけの美容室に通って頂いたり、できる限り、入居前と変わらない関係が続けられるようにしている	定期受診はできる限り家族の協力と支援を受けながら馴染みの関係性の継続を支援している。受診外出時には家族との外食や買い物等を楽しんだり、家族との大切な時間を過ごせるよう働きかけている。入所以前から利用していた美容室との関係性を継続できるよう努めたり、以前からの友人関係が途切れないよう対話の時間を大切にしながら取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じてホールの席替えや、職員が間に入り会話の橋渡しなど行っている。入居者同士の声掛けや介助をしている際はそばで見守るなどしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院して退去となることが多いが、退去後も必要時にはカンファレンスに参加したりなどして、退去後もサポートやアドバイスするようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症があるので本人の意向が聞けない事も多いが、普段の様子や、ご家族から以前の様子なども聞き、職員皆で考えるようにしている	日頃の関わりの中で一人ひとりの思いや意向を掴む工夫をしている。業務日誌の中の『いい表情をされたこと、喜ばれたこと』の記入欄を活用し、日常の些細なことを書き留められるよう取り組んでいる。家族からは以前の暮らしぶりや好きなこと、大切にしてきたこと等を聴き取り、職員全員が一人ひとりに関心を払い把握しようと努めている。		
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞くようにはしているが、センターシートの活用なども検討したい	入所前に利用していた事業所、病院等からの情報や入所前の面談でADL確認表を利用し、基本情報としてこれまでの暮らしの把握を集めるようにしている。今後は「センター方式シート」を活用しての本人のバックグラウンド(歴史・背景)に関する情報整理の導入を検討している。	本人のバックグラウンド(背景・歴史)に関する情報の大切さを家族・知人等に伝え取り組むことで、一人ひとりのこれまでの暮らしぶりを知ることの重要性を理解し、本人をはじめ家族や地域の人の力を借りながら継続的に取り組む姿勢が必要となる。今後は、これからの本人の楽しみや生きる活力を引き出すために、その人独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を把握する取り組みが期待される。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、毎月のミーティングなどで状況の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の課題や問題点などについては話し合いを行えているが、ご家族との話し合いは、プラン変更時などにしか行えていなく、現場職員も参加しての家族との話し合いの場などをつくっていただけたらいいと思う	計画作成担当者が中心となり、本人や家族等から暮らし方についての想いや意見の聴き取りを行う他、業務日誌の『いい表情をされたこと、喜ばれたこと』記入欄等の情報を収集し、毎月のミーティングで話し合いを行い介護計画に反映させている。居室担当が毎月モニタリングを実施し、課題や問題点などについてはミーティングで話し合いを行っている。介護計画は定期的に見直し、体調に変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	介護計画作成の一連の流れの中でカンファレンスが実施されておらず、管理者も本人と家族、現場職員等の参加による話し合いの機会が十分ではないと感じている。本人の想いに沿った、より良く暮らすための介護計画となるよう、本人と家族、職員や必要な関係者と話し合う機会を持ち、それぞれの意見や想いを引き出す工夫を行い介護計画に反映されることが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録などは毎月のモニタリング以外行えていない。こう少し個別に様子や気づいた事を記録し、ケアに活かせる工夫が必要だとおもう		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまり柔軟な支援やサービスは行えていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や協働はあまり行えていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は以前からのかかりつけ医に受診してもらっている。必要時には受診介助や状態に応じ、専門医への受診変更などの相談、支援を行っている	利用者・家族等が希望するかかりつけ医に継続して受診できるよう、家族等と連携しながら受診支援を行っている。現在は感染症対策の観点から職員が受診同行し、受診結果を家族へ連絡している。また、専門医への受診の際には、もの忘れ連絡シートを使用して医療機関に情報提供を行うなど、適切な医療を受けられるよう相談や支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、小規模にきている看護師に状態の相談をしたり、病院の看護師に相談、情報共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入院中も定期的に状態の確認、退院時にはカンファレンスを行い関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明は行っているが、早い段階からの話し合いはなかなか行っていない。	入居契約時に契約書、重要事項説明書に添って退居や看取り、医療処置が多くなった場合や重度化した時の事業所の対応について口頭で説明し理解を得ている。また、体調の変化に合わせて事業所でできること等について、その都度説明を行い、医療機関との連携、施設移行の相談や支援に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行っているが、実践力をもっと身に付けて行かないといけないと思う	急変時、事故発生時のフローチャートが整備されており、緊急時に速やかに対応できるよう電話の傍に備えている。職員は定期的に消防署の救命講習を受講し、実践力を身に付けるよう努めている。事故発生時には、毎月のミーティングの中で検討を行い、事故防止に取り組んでいる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、施設でも年に2回、避難訓練を実施している。連絡網にも消防団の連絡先や、入居者の居室の入り口に写真と名前が書いてあるトリアージをぶら下げて分かるようにしている	事業所では年2回消防署立ち会いの避難訓練を実施し、地域の消防団からも参加を得て日頃から協力体制を築いている。地震、土砂、風水害、原子力災害等のマニュアルが整備されており、災害時の避難誘導に備えて利用者の情報が分かるトリアージのタグを、居室入口に下げるなどの工夫がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けなど、他の方に聞こえるような声掛けの仕方をしている時があるので、研修やミーティングで改善するようにしていきたい	利用者の人格や誇りを損ねることがないように、一人ひとりの性格や状態に合わせた言葉かけや対応を工夫している。排泄介助の際には、さりげない周囲に配慮した言葉かけや対応に努めている。管理者はプライバシーを損なうような言葉かけがあれば、その都度注意を行う他、毎月のミーティングの中で振り返りを行い、プライバシーの確保に向けたケアの実践に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も本人に聞き、自己決定ができるようにはしている上手く伝えられない方には選択をしてもらうようにしたり、できる限り自己決定を促している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に合わせてしまっている所があるが、できる限り本人様のペースに合わせて行っていけるように、状態に合わせて業務を変えていくなどの話し合いを行っていきたい			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は職員と一緒に服を選んだりしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューが決まっているので、なかなか個人の好みなどは反映できていない。食事の準備や片づけは利用者、職員と共にやっている	職員は利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら、食材の下ごしらえや盛り付け、配膳や後片づけ等を一緒に行っている。献立は決まっているが、選択できるお楽しみメニューや嗜好に合わせた代替え食も対応ができる。また、誕生日や行事で好きなものを食べに出掛けたり、事業所の畑で採れたさつま芋でスイートポテトを作って食べたりと食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事がとれない際の捕食の用意はしている。水分も多めにとるように声掛け、介助し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い。個人の状態に応じ、声掛け、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンはなかなか把握できず、介助を必要とする方は時間で誘導してしまっている。自立に向けた支援はできていないと思う	利用者個々の状態に合わせ、さりげない言葉掛けで自立に向けた排泄支援に努めている。排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンの把握に努め、おむつを使用していた利用者がリハビリパンツへ移行できた事例がある。トイレ介助の際には専用のエプロンを着用し、衛生面にも配慮しながら気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んで頂いたり、午後から運動する時間をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が希望したら入浴できるようにしている	入浴日は概ね決まっているが、その他の日も希望により入浴できるよう柔軟に対応している。個々の生活習慣を尊重し、1日に3人程の利用者が好みの時間帯にゆっくりと入浴を楽しんでいる。また同性介護を基本としており、プライバシーにも配慮がなされている。脱衣室は広くて冷暖房が完備され、天井走行型のリフトが設置されており、重度化しても入れる入浴環境となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて休息の声掛けをしたりし支援できていると思う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をファイルに閉じて、職員がいつでも確認できるようにしている。内服の変更があったら職員に周知し、数日は服薬による変化がないか気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた楽しみ事の支援は行えていないと思う		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行く際に一緒に行ったり、ドライブなどには出掛けている。ご家族や地域の人々との協力はあまり行えていない	季節行事のお花見や、天気の良い日には利用者の希望する場所へドライブに出掛けている。日常的には事業所の畑や近所への散歩、近くのコンビニへの買い物や希望する靴を買いに出掛けたりと、職員は利用者一人ひとりのその日の希望に添って戸外に出掛けられるよう支援している。また、受診外出の帰りに利用者の自宅に立ち寄ったり、庭の果物を収穫してきたりと、利用者の想いや馴染みの人や場所との関係が途切れないよう外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持っている方はいられるが、それを使って買い物をするなどはできていない。家族が管理されて持っていない方も多い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人がしたいと言われた時はしていただいている。懸賞など出す方がいられるので、はがきを出したりなどの援助はしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るような飾り付けなどはできていない。トイレの場所が分かりづらいので、わかりやすい表示などはしている	利用者が集う居間の壁面には、手作りのカレンダーや行事の写真、季節感のある飾りつけがされており、窓からは明るく暖かな日差しが差し込み居心地よく過ごせる空間が広がっている。キッチン是对面式で職員は利用者と会話をしながら食事の準備等を行っている。フロア内は清掃が行き届き、清潔で居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに一人になれる空間がない。気の合った方同士が近くに座れるように席を配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は自宅から持ってきてもらっているが、人によって居室の飾り付けなどは違い、殺風景な部屋の方もいられる	居室にはベッド、エアコン、洗面台、寝具等が備え付けられており、その他馴染みの環境となるよう、自宅で使い慣れたタンスや椅子、テレビ等を自由に持ち込まれている。また、手芸の作品や家族との写真を飾るなど、本人が居心地良く安心して過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の電気の付け方が分かりにくいなど、利用者さんにとって難しい作りになっているところがある		